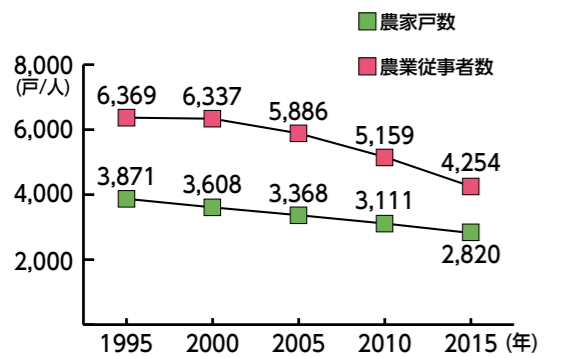
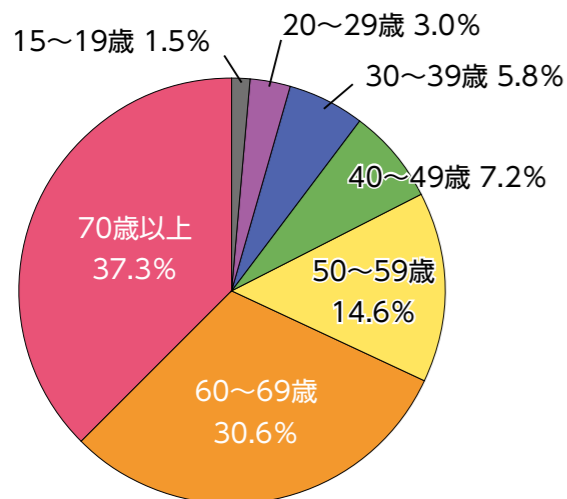


### 市内の農家戸数・農業従事者数の推移



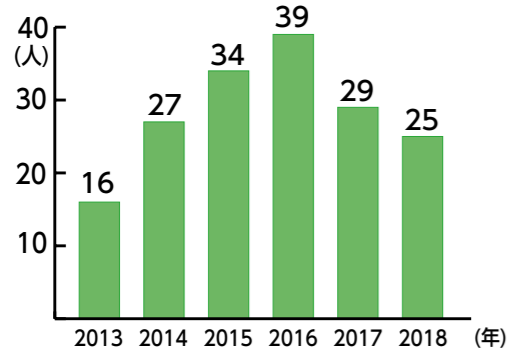
(出典：農林業センサス)

### 市内の農業従事者の年齢割合 (2015年時点)



(出典：2015年農林業センサス)

### 市内の新規就農者数の推移



(出典：栃木県農政部経営技術課 新規就農者に関する調査)

**農業を取り巻く情勢**

「新鮮な朝採れ野菜」や「おいしい牛乳・乳製品」など、直売所やスーパーで気軽に購入できるこのまちの良質な農産物。では、皆さんはその農産物の生産者や「農業」そのものについてどんなイメージを持っているでしょうか。

昨今の日本の農業を取り巻く状況は、米価の低迷や農業者の高齢化、担い手不足、貿易摩擦などの影響により、厳しくなっています。特に深刻なのは、担い手の高齢化、担い手不足の問題で、遊休農地が増加傾向

にあるなど、持続可能な農業ができなくなるのではと危惧されています。

この状況は、本市においても例外ではなく、1995年の市内の農家、農業従事者は3871戸、6369人でしたが、2015年にはそれぞれ2820戸、4254人にまで減少。農業従事者の年齢も、60歳以上が7割近くを占めるという状況で、「担い手の育成」が、まさに喫緊の課題になっています。このまちの基幹産業「農業」の担い手を増やすためには、国や県、市の支援制度だけでなく、農業者の皆さん、そして消費者

の皆さんのサポートが必要です。

**農業に魅力を感じて**

年々農業者が減少している中でも、農業に魅力を感じ、一歩踏み出して夢を実現している人も。本市では毎年30人程度の新規就農者がいますが、彼らは農業の何に惹かれ、どこに可能性を見いだしたのでしょうか。

今回の特集では、「農業」を職業として選択し、充実した日々を送る新規就農者と、これから就農を予定している就農予定者の声をお届けします。



毎年、生産者自らが小学校で食育・地産地消のための授業を行っています。

# 作ってくれる人がいる だから 食卓に笑顔が 生まれる

地元で採れる新鮮な野菜。  
本州一を誇る牛乳。  
私たちが笑顔で囲む食卓には、  
いつもこのまちの農産物が。

私たちの食卓に笑顔を届けてくれる  
このまちの農産物。  
そんな農産物を作っている  
農家の現状を考えます。

